

宮条南遺跡発掘調査報告

—県営農地整備事業町袋地区に伴う
埋蔵文化財発掘報告—

2024年

公益財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査課

宮条南遺跡発掘調査報告

— 県営農地整備事業町袋地区に伴う
埋蔵文化財発掘報告 —

2024年

公益財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査課

序

本書は、県営農地整備事業に先立ち、令和6年度に実施した宮条南遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

この遺跡は常願寺川左岸の平野部にあり、現在は水田地帯となっています。

発掘調査の結果、中世の土坑や溝のほか、偶跡目の足跡がみつかりました。また、近代以降の水路の変遷から旧地形や周辺での耕作地の様子が明らかになりました。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録に現れることのない人々の生活をひもとく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

令和6年9月

例 言

上 富山県 富山市 町袋に所在する宮条 南遺跡の発掘調査報告書である。

- 1 本書は富山県富山市町袋に所在する宮条 南遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は富山県からの委託を受け、公益財団法人富山県文化振興財団が行った。
本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。
調査期間 令和6（2024）年5月7日～5月20日
整理期間 令和6（2024）年5月21日～9月30日
- 3 調査に関する全ての資料と出土遺物は、本書刊行後、富山県埋蔵文化財センターで保管する。
- 4 遺跡の略号は、市町村番号（富山市は01）に遺跡名のアルファベット頭文字を続け、「01 MM」とし、遺物の注記にはこの略号を用いた。
- 5 発掘調査は埋蔵文化財調査課長田中道子と同副主幹越前慎子が、本書の執筆および編集は田中が担当した。
- 6 本書で使用している遺構の略号は、以下のとおりである。
SD：溝、SK：土坑
- 7 遺構番号は、遺構の種類に関わらず連番とした。
- 8 本書で示す座標は平面直角座標系第Ⅷ系（世界測地系）を基準とし、方位は全て真北、標高は海拔高である。
- 9 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。
遺構 溝・土坑：1/40
遺物 土器：1/3
- 10 土層及び遺構埋土、土器胎土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。
- 11 遺物は、種類に関わらず連番を付す。
- 12 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・ご協力を得た。記して謝意を表します。（敬称略、五十音順）
常西用水土地改良区 富山県教育委員会 富山県埋蔵文化財センター 農事組合法人町袋営農組合

目 次

第Ⅰ章 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	1
2 発掘作業の経過と方法	2
3 整理作業の経過と方法	2
第Ⅱ章 位置と環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	4
第Ⅲ章 調査の成果	5
1 概 要	5
2 遺構・遺物	5
第Ⅳ章 総括	10
報告書抄録	

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第5図	遺構実測図・遺物実測図	6
第2図	既往の本調査	2	第6図	足跡平面図	7
第3図	周辺の地形と遺跡	3	第7図	町袋地区公園	8
第4図	遺構全体図	5	第8図	近代溝の変遷	9

表目次

第1表	既往の調査一覧	2	第3表	足跡を検出した主な遺跡	7
第2表	周辺の遺跡一覧	4			

写真図版目次

図版1	航空写真	図版3	その他の遺構・遺物
図版2	全景・遺構		

第I章 調査の経過

1 調査に至る経緯

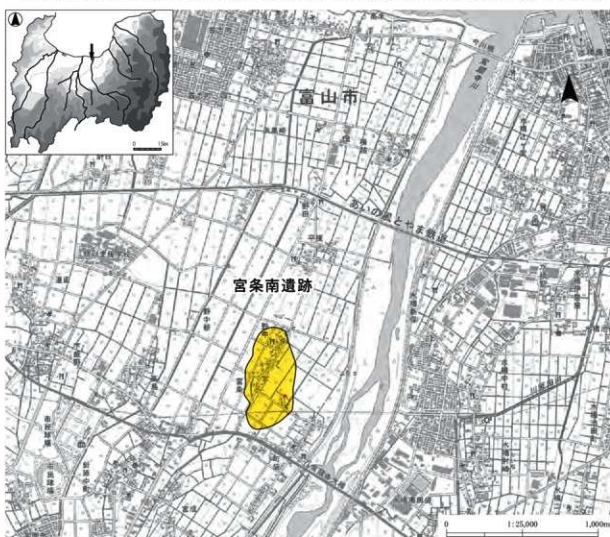
(1) 調査の契機

富山市町袋地区の水田33.7haを対象に、令和3(2021)年度から令和11(2029)年度にわたる県営農地整備事業が計画された。事業計画地内にある宮条南遺跡では、令和3・4年度に富山県教育委員会(以下、県教委)が試掘調査を実施し、保護措置必要範囲が提示された。これを受け、富山県農林水産部、富山県富山農林振興センター(以下、富山県)が工事設計し、令和5年7月には県教委と富山県の協議により、市道転回場工事範囲57㎡が保護措置を必要とすると判断された。令和6年度に富山県から受託した公益財団法人富山県文化振興財団(以下、財団)が、本発掘調査を実施した。

(2) 既往の調査

遺跡では県営低コスト化水田農業大区画は場整備事業(針原北部地区約123ha)に伴い、平成7年度に富山市教育委員会(以下、市教委)の試掘調査が実施された。平成8年度には用排水路及び道路等工事箇所の本発掘調査が実施された(第2図)。

調査では溝、井戸、土坑、近世墓地跡などの遺構と、室町時代を主体とした遺物が確認され、室町時



第1図 遺跡位置図 (1/25,000)



第2図 既往の本調査 (1/10,000)

第1表 既往の調査一覧

年度	調査区分	調査主体	調査面積 (㎡)	調査対象面積 (㎡)	文献
平成 7 (1995)	試掘調査	市教委	1,000.00	40,000.00	1・8
平成 8 (1996)	本調査	市教委	5,400	—	2・9
平成 23 (2011)	試掘調査	市教委	8.00	55.48	3
平成 24 (2012)	試掘調査	市教委	8.10	144.07	4
平成 26 (2014)	試掘調査	市教委	40.04	1,332.64	5
令和 3 (2021)	試掘調査	県教委	436.60	51,000.00	6
令和 4 (2022)	試掘調査	県教委	425.90	43,000.00	7

文献

- 1 富山県埋蔵文化財センター 1996『富山県埋蔵文化財センター年報—平成7年度—』
- 2 富山県埋蔵文化財センター 1997『富山県埋蔵文化財センター年報—平成8年度—』
- 3 富山県埋蔵文化財センター 2012『富山県埋蔵文化財センター年報—平成23年度—』
- 4 富山県埋蔵文化財センター 2013『富山県埋蔵文化財センター年報—平成24年度—』
- 5 富山県埋蔵文化財センター 2015『富山県埋蔵文化財センター年報—平成26年度—』
- 6 富山県埋蔵文化財センター 2022『富山県埋蔵文化財センター年報—令和3年度—』
- 7 富山県埋蔵文化財センター 2023『富山県埋蔵文化財センター年報—令和4年度—』
- 8 富山県教育委員会 1996『富山県野田・平橋遺跡 野中新長福遺跡 宮条南遺跡 高島浦遺跡』
- 9 富山県教育委員会 1997『富山県宮条南遺跡 高島浦遺跡 野中町1遺跡 野中町2遺跡』

代後期(15世紀後半)に本格的に集落が形成され、戦国前期まで継続したとされる(市教委1997)。

また、平成23・24年度の市教委による試掘調査では、弥生時代の遺構や遺物が確認されている。

さらに、県営農地整備事業(町袋地区)に伴い、令和3・4年度に県教委が実施した試掘調査では、弥生時代の遺物を伴う溝や古代や近世の遺物を伴う土坑や井戸などが確認され、保護措置を必要とする範囲は24,773㎡とされた(富山県埋蔵文化財センター2022・2023)。

2 発掘作業の経過と方法

(1) 調査の経過と方法

調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準(報告)』に則って進めた。

発掘調査は便宜的に調査区南西端を原点とし、10m間隔のグリッド杭を設置した。表土や盛土の除去は重機で行い、遺構検出や遺構埋土の掘削は調査員が行った。遺構の記録は、断面はデジタルカメラで撮影し、1/20の縮尺で図化した。調査区の全景写真はフローニー判(6×7)カメラを用いた。調査区の遺構平面図は、トータルステーションを用いた現地測量により作成し、国家座標(平面直角座標系第Ⅶ系)に合わせ図化した。

(2) 基本層序

調査区の現況は田で、標高は6.7mを測る。基本層序はⅠ層:表土、Ⅱ層:盛土、Ⅲ層:遺物包含層、Ⅳ層:地山に分層される(各層の細分は第5図参照)。Ⅳ層上面で遺構を検出し、その標高は5.8mである。

3 整理作業の経過と方法

発掘調査終了後、報告書作成に向けての整理作業を開始した。遺物の復元と実測は室内整理作業員が行った。遺構・遺物の挿図作成、遺物の写真撮影、原稿執筆、編集は調査員が行い、原稿は全てデータ入稿し、校正、印刷を行った。

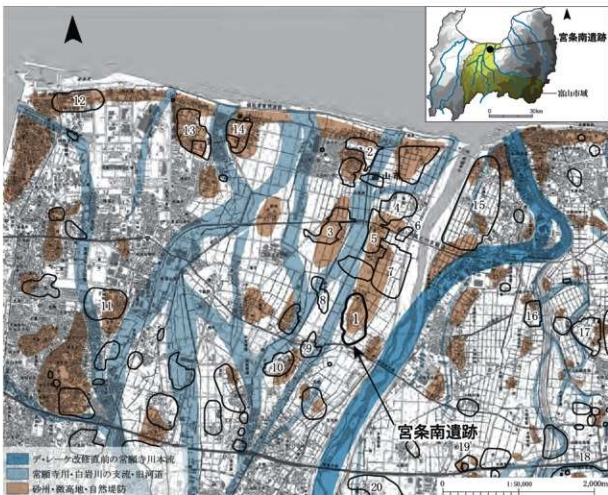
第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境

遺跡の所在する富山市は富山県の中央部に位置する。「平成の大合併（平成17年）」で1市4町2村が合併し、市域は県内最大の1,241.7km²となり、北は富山湾、南は岐阜県境、東は長野県境まで広がったその地形は変化に富む。豊富な魚介類を育み「天然の生簀」と称される深さ1,000mの富山湾から、日本屈指の暴れ川として知られる常願寺川と神通川によって形成された複合扇状地には水田地帯が広がり、河川に開析された低位・中位段丘では溪谷美を誇る神通峽や重要文化財の常願寺川砂防施設がみられ、さらに深い森林の広がる丘陵から雲峰立山に連なる3,000m級の山地へと、比高約4,000mの間で大きく変化する。

遺跡は富山市の北部、海岸線から約2.5kmの常願寺川左岸に位置し、遺跡周辺は標高7m前後の平坦な水田地帯である。しかし、かつては度重なる常願寺川の氾濫により甚大な被害があった地域で、明治時代の河川改修工事で常願寺川の河道を白岩川から分離させたことでようやく安定した。

遺跡周辺は標高8mほどの扇状地扇端から海側に広がる自然堤防帯（氾濫原）にあたり、網目状に走る常願寺川支流の旧流路間に自然堤防が形成される。遺跡は自然堤防上にあり、調査地はその南端に立地する。



第3図 周辺の地形と遺跡 (1/50,000)

豊田河童等は国土地理院作成『治水地形分類図』の他、下記の参考文献を参考とした。
富山県文化振興財団2020『水源地田原遺跡 水源地田原遺跡 水源地田原遺跡 水源地田原遺跡発掘調査報告書』
富山県文化振興財団2024『水源地田原遺跡 田原遺跡発掘調査報告書』
富山県教育委員会2002『富山市水源地町・辻・栄道跡・栄道調査報告書』

2 歴史的環境

遺跡周辺では縄文時代の土器や石器が複数の遺跡でみつかっており、これまで縄文海進のピークが過ぎ、海面が下がり陸地化が進んだ縄文時代後期～晩期以降に遺跡群が展開していくと考えられていた。

しかし、令和5年度に当財団が実施した発掘調査において、浜黒崎町畑遺跡(2)で前期後半の規ヶ森Ⅱ式土器が、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡(15)で中期後葉～後期前葉の土器が多く出土したことから、海進期でも海岸部近くで生活活動があったことが明らかになった。後期～晩期には海岸砂丘部に岩瀬天神遺跡(12)が、海岸部からやや内陸に浜黒崎野田・平榎遺跡(5)、高島浦遺跡(8)や針原中町1遺跡(9)が、さらに白岩川河口から約4.5km内陸には建物跡が確認された水橋金広・中馬場遺跡(18)がみられるようになる。

弥生時代から古墳時代には浜黒崎悪地遺跡(3)、弥生時代後期後半の方形周溝墓が確認された水橋荒町・辻ヶ堂遺跡、水橋金広・中馬場遺跡など、海岸部から内陸部まで生活活動が認められる。

古代には常願寺川左岸の海岸部も含め、広い範囲で遺跡が確認されるようになる。水橋荒町・辻ヶ堂遺跡では掘立柱建物や道路跡等が確認され、「延喜式」にある古代北陸道の越中八駅の一つである「水橋駅」に比定されている。また、水橋金広・中馬場遺跡や水橋二杉遺跡(20)でも道路跡が検出され、陸路と水路の交通網の広がりがかがえる。

中世の周辺地域では鎌倉時代に祇園社領「堀江荘」、室町時代に「小井出保」の存在が知られており、こうした荘園を中心に地域の水田開発が進めらる。水橋金広・中馬場遺跡や水橋専光寺遺跡で集落が確認されたほか、海岸部に大村城(13)、日方江城(14)が、やや内陸には薬研堀が確認され「平榎城」との関連が想定される平榎亀田遺跡(7)、二重の堀で半町四方の区画がなされ、中世末～近世初頭の有力層の屋敷地とされる水橋池田館遺跡(16)、堀の一部が確認された小出城(17)などの城館が海岸部を通る浜街道や内陸部の北陸街道沿いの交通の要衝に立地し、戦国期には軍事上の拠点となる。

近世には周辺地域は加賀藩領新川郡となり、常願寺川・神通川両河川の運んだ土壌により生産力が高く、大規模な村が多い一方で、度重なる水害に見舞われた地域でもある。安政5(1858)年の飛越地震により発生した大崩れに起因する常願寺川の大規模な洪水により、多くの人命や農地が失われた災害が象徴的である。頻発する水害に悩まされ続ける状況は明治期に至っても同様であったが、明治24(1891)年の水害を契機に、国から派遣されたオランダ人技術者ヨハネス・デ・ケーレの計画に基づく河川改修工事が実施された。改修前は河口から約2km上流付近で東に蛇行し白岩川に合流していた河道を白岩川から分離し、現在のように富山湾に注ぐ河道に改修したことで水害は減り、徐々に現在の水田が広がる農村景観が形成された。

第2表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種類	時代
1	芸桑南	集落	縄文(後・晩)、弥生(中)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
2	浜黒崎町畑	集落、散布地	縄文(前)、奈良、平安、中世
3	浜黒崎悪地	集落	縄文(後・晩)、弥生(中)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
4	橋越	集落	縄文(晩)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
5	浜黒崎野田・平榎	集落	縄文(前～晩)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
6	橋越水窪	集落	古代、中世、近世
7	平榎亀田	集落、城跡、散布地	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世
8	高島島浦	集落	縄文(後・晩)、弥生(後)、古墳、奈良、平安、中世、近世
9	針原中町1	集落	縄文(後)、弥生(中)、古墳、奈良、平安、中世、近世
10	針原中町2	集落	縄文(晩)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
11	木田大豆	集落	縄文、弥生、奈良、平安、中世、近世
12	岩瀬天神	集落	縄文(中～晩)、弥生(後)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
13	大村	集落	弥生(後)、奈良、平安、中世、近世
14	大村城跡	城館	中世
14	日方江	集落	縄文(後・晩)、弥生、奈良、平安、中世
14	日方江城跡	城館	中世
15	水橋荒町・辻ヶ堂	集落、宮衛	縄文(中～晩)、弥生、古墳(前・後)、白鐵、奈良、平安、中世、近世
16	水橋池田館	集落、散布地	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世
17	小出城跡	城館、集落	縄文、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
18	水橋金広・中馬場	集落、古墳、堀	縄文、弥生(後・晩)、古墳、奈良、平安、中世、近世
19	中野	集落	縄文(後・晩)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世
19	熊野跡跡	城館	中世
20	水橋二杉	集落	縄文(後・晩)、弥生(中～晩)、奈良、平安、中世、近世

第三章 調査の成果

1 概要

検出遺構は土坑3基、溝3条である。遺構の分布は疎で、遺物はⅢ層で確認したのみで遺構からの出土はない。そのため、埋土の特徴などを考慮し推定した遺構の所属時期は概ね中世である。出土遺物は図化した1点以外は写真で掲載した。

2 遺構・遺物

(1) 遺構

A 溝

1・2号溝 (SD1・2、第4・5図、図版2)

調査区西端に位置する。SD1は北東方向で幅0.56m、深さ0.15m、SD2は南北方向で確認した幅0.34m、深さ0.15m。埋土はともに黒色シルトで、同時期のもの。

6号溝 (SD6、第4・5図、図版2)

調査区東側に位置する。幅0.32m、深さ0.1m。埋土は黒色シルト。SD2とはほぼ直交する方向。

B 土坑

3号土坑 (SK3、第4・5図、図版2)

調査区西端に位置する。確認した長さ0.75m、深さ0.24mの不整形。埋土は黒褐色シルトで、SD1・2より新しい時期のもの。

4号土坑 (SK4、第4・5図、図版2)

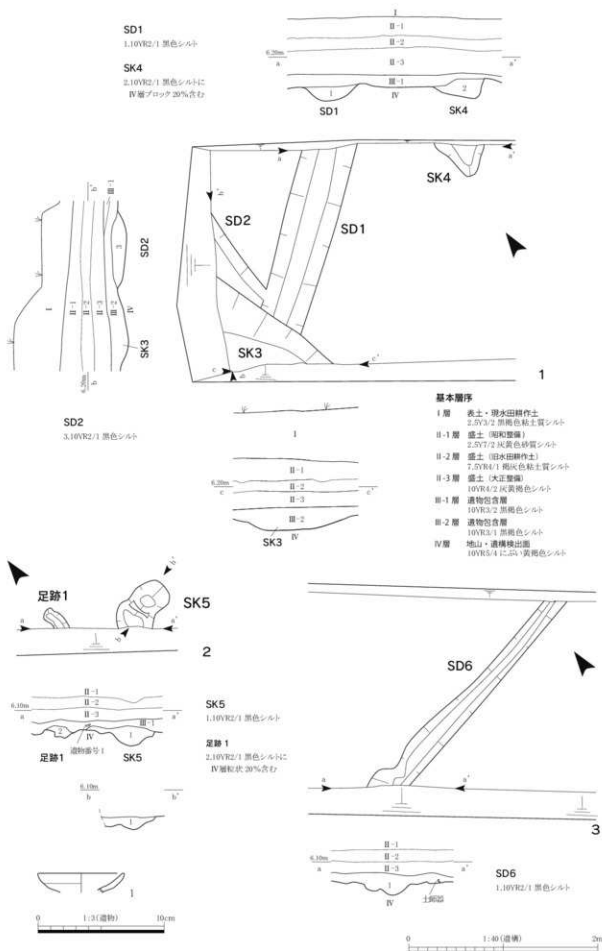
SD1東側の北壁沿いに位置する。確認した長さ0.52m、幅0.33m、深さ0.2mの不整形。埋土は黒色シルトにⅣ層地山ブロックが混じる。

5号土坑 (SK5、第4・5図、図版2)

調査区中央の南壁沿いに位置する。確認した長さ0.56m、幅0.41m、深さ0.18mの楕円形。埋土は黒色シルト。



第4図 遺構全体図



C その他の遺構

足跡（第4・6図、図版3）

調査区中央よりやや西側で確認した、ウシとみられる偶蹄目の足跡。足跡は2組8個分で、前足跡の後部分に後足が重複し、北へ向かい歩く。埋土は黒色シルトに粒状のIV層地山が混ざる。足跡の大きさは、南壁際にある足跡1の確認した長さ26cm、幅15cm（前足長さ13cm、幅15cm、深さ3cm）、足跡2は長さ33cm、幅14cm（前足長さ16cm、幅14cm、深さ4cm、後足長さ17cm、幅13cm、深さ3cm）、足跡3は長さ33cm、幅14cm（前足長さ14cm、幅14cm、深さ5cm、後足長さ19cm、幅13cm、深さ3cm）、足跡4は長さ35cm、幅14cm（前足長さ16cm、幅13cm、深さ3cm、後足長さ20cm、幅14cm、深さ4cm）で蹄の遺存状態がもっとも良い。足跡間隔は右足跡4-2の前足間1.63m、左足跡3-1の前足間1.58m、足跡幅は足跡4-3の前足幅0.33m、後足幅0.38mである。

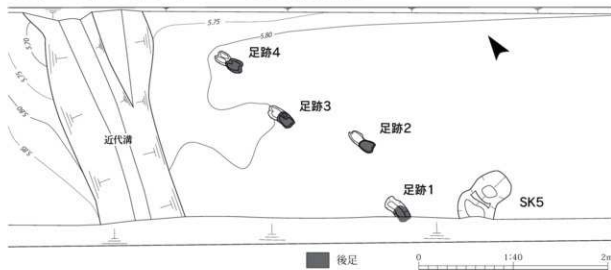
足跡が確認された県内の主な遺跡では、水田耕作等に関連する多数不定方向の足跡が主で、当遺跡のような歩行のみの例はみられない。

第3表 足跡を検出した主な遺跡

遺跡名	足跡の種類	時代	備考	文献
北反敵遺跡	人間	中世		1
	牛・馬	中世期以降		
任海宮田遺跡	人間	中・近世以降	稲などの栽培植物の株痕	2
任海宮田遺跡	足跡状遺構	平安時代		3
今開発遺跡	足跡状の痕跡	中世	ウシの歯	4
下老子伊川遺跡	人と偶蹄類	古墳時代		5
穂万頼成遺跡	人とウシと考えられる偶蹄目	奈良時代から平安時代		6

文献

- 1992 小矢部市教育委員会『富山県小矢部市北反敵遺跡-発掘調査報告-』
- 1996 富山県埋蔵文化財センター『富山県富山市任海宮田遺跡発掘調査報告書』
- 1998 富山県教育委員会『富山県内遺跡発掘調査報告Ⅱ 任海宮田遺跡 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』
- 2013 公益財団法人富山県文化振興財団『白石遺跡 大江東遺跡 大江遺跡 愛宕遺跡 今開発遺跡 今開発遺跡三ヶ・本開発遺跡発掘調査報告-北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅴ』
- 2014 公益財団法人富山県文化振興財団『下老子伊川遺跡 江尻遺跡発掘調査報告-北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ』
- 2016 公益財団法人富山県文化振興財団『穂万頼成遺跡発掘調査報告-国道359号富波東バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ』



第6図 足跡平面図

近代溝（第8図、図版3）

調査区中央やや西に位置する南北方向の溝。調査区北壁で確認した規模は幅2.3m、深さ1.1mで、埋土から二時期の水路が重複する（第8図上の写真）。出土遺物はなく時期は不確定であるが、大正時代の公園を参考に近代のものとする。古い水路1は幅2.3m、深さ1.1mで、中位にある犬走り状の段で幅1.15m、中央部が更に一段深くなる。西側の下段法面に護岸用の木杭列が伴う。埋土は攪乱された土。新しい水路2は幅0.9m、深さ0.7mで、埋土はⅡ-1層。水路のほか兩岸の畦畔や旧水田面が当時の形状を残したままⅡ-1層で埋められており、大規模な耕地整備の様子がうかがえる。



大正時代整備後（昭和整備前）

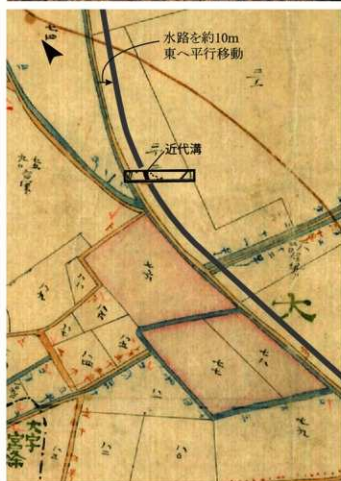


大正時代整備前

第7図 町袋地区図（農事組合法人町袋営農組合提供の図に加筆 縮尺 1/8,000）

(2) 遺物 (第5図、図版3)

1は中世土師器皿。口径7cm、口縁端部を1段ヨコナデ、胎土は緻密でにぶい黄橙色(10YR7/3)を呈する。2は土師器小破片。1・2はⅢ-2層出土。3～5は調査区周辺で採集したもの。3・4は近世以降の陶磁器。5は砥石で、上下を欠損、砥面は4面ともよく使用されている。



第8図 近代溝の変遷 (縮尺 1/2,000)

第Ⅳ章 総括

今回の宮奈南遺跡の発掘調査では、調査地が転回場の一部分という狭小な範囲のため、確認した遺構は溝3条、土坑3基と少なくとも東西端に偏り、中央部分は空白地帯となる。水田等の耕作地の一部とみられ、後世の削平により遺構はいずれも浅く、遺構内出土の遺物はない。したがって、遺構の時期は包含層出土の中世土師器から概ね中世と推定した。

これらの遺構と同様な埋土をもつものに、ウシと考える偶蹄目の足跡がある。わずか2組8個分であるが、ほぼ真北に向かって歩く様子を確認した。足跡は北側のものほど蹄跡ははっきりしており、ぬかるんだ状態であったのか現存のウシのものより大きい。足跡の東側、調査区中央の空白地帯には、ほかに同様な足跡や人間のものなどは確認されず、耕作ではなく運搬に伴うものと推測する。役牛は前駆が大きく後駆が小さいという体形の特徴をもつが、確認した足跡幅に目立つ差はない。

富山県是水田率が高く、昭和30年代まで農耕馬の使役が続く一方で、奈良時代から平安時代にかけて大規模な荘園開発とともに牛耕も定着したと考えられる。また、ウシは人の移動手段としての「牛車」や近世の飛騨街道難所での物資運搬手段として使役され、生活に密着した家畜といえる。

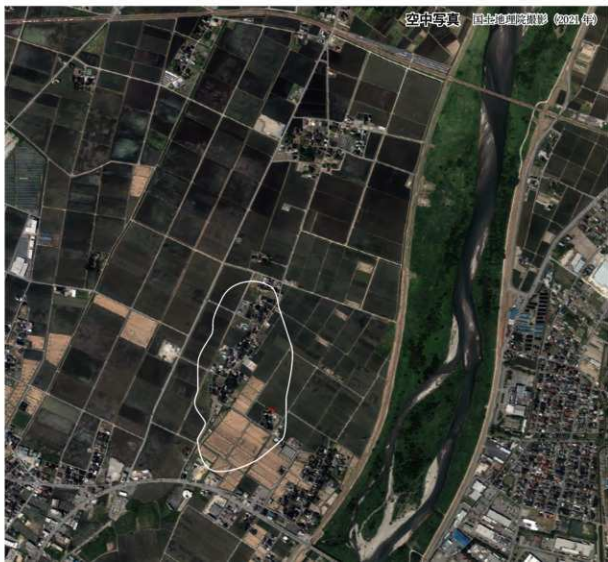
今回の発掘調査は県営農地整備事業町袋地区に係るもので、その事業対象面積は33.7ha、令和3年から令和11年までの期間をかけて大区画ほ場へと区画整理が実施される。町袋地区では大正時代と昭和40年代にも耕地整理が実施されており、その際の公図を農事組合法人町袋営農組合のご厚意で提供いただいた。大正時代耕地整理前の「上新川郡針原村町袋耕地整理組合地区及之ニ隣接スル土地ノ現形圖」、大正時代耕地整理後（昭和時代耕地整理前）の「上新川郡針原村町袋耕地整理組合地区整理確定圖」はともに原図の縮尺は1/1,200で、宅地が桃色、水路が水色、道路が薄茶色で描かれている。現在の国道415号、市道、徳蓮寺や八幡社、村境が凡そ重複するように調整し、今回の調査地をそれぞれの公図に示し（第7図中の黒線）、調査地付近を抽出した（第8図下）。大正時代耕地整理前の調査地周辺は同高線42の微高地で、東に常願寺川の旧流路である谷地形がみられ、田の区画は水路や旧地形に応じて細かくかつ不整形である。耕地整理により道路と水路は大きく方向を変え、田の区画は現状と同方向に規格化され、昭和時代の整備により大区画化され現状となる。

調査で確認した水路（近代溝）は前述のとおり二時期の水路が重複しているが、遺物の出土もないためその時期を直接的に決定づけることはできない。しかし、公図に描かれた調査地に最も近い水路をそれぞれ10m、15m東へ平行移動させると、確認した水路とほぼ一致することから、水路1は大正時代の耕地整理前まで機能していたもので、水路2は昭和時代の耕地整理により埋められるまで機能していたものと推定できる。水路1の西法面にある護岸用の杭列は、緩やかに曲がる流路に対処したものであり、攪乱された埋土の状況から工事の際に一気に埋められた状況が窺われる。また、直線的な水路2は均質な土（Ⅱ-1層：盛土）が埋土で、両側に畦畔や水田面が確認される。県教委が実施した試掘調査でも同様の埋土をもつ水路等が検出されていることから、昭和時代の耕地整理時の客土により一帯が現状のまま盛土された状況が窺える。

今回の調査地は遺跡縁辺のため遺構も遺物も疎で、既往の調査で確認された弥生時代や古代の集落の中心はより西側とみられる。この地域の長い歴史において、調査で確認した水路の変遷は極めて短期間であるが、幾度となく水害に見舞われたであろう厳しい状況から豊かな水田地帯に変貌させ、さらに生産力向上のためにたゆまぬ努力が積み重ねられたことを理解する機会となった。



空中写真 空軍撮影 (1947年)

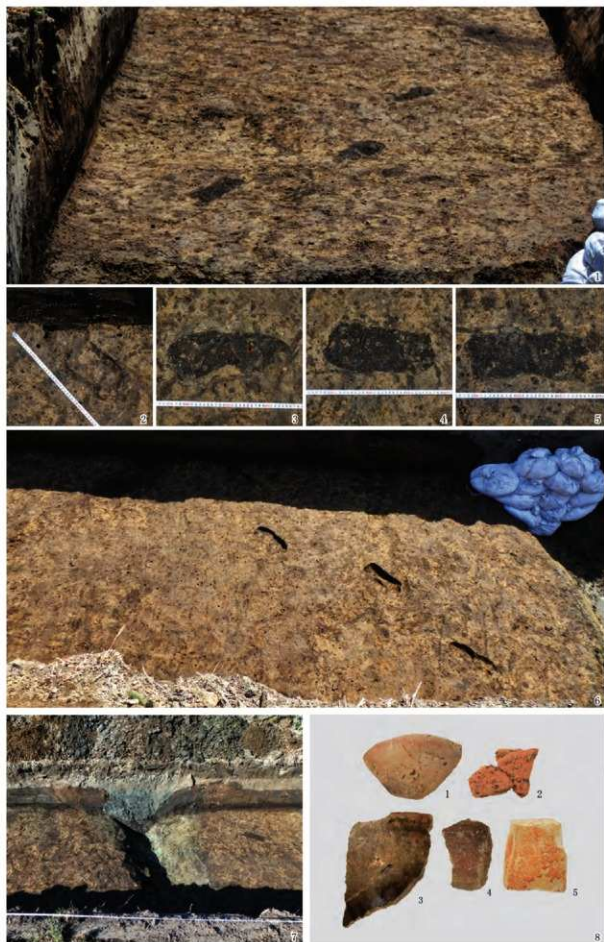


空中写真 国土利用院撮影 (2021年)



全景・遺構

1. 全景(西から) 2. SD1・SK4(南から) 3. SD1(南から) 4. SD2・SK3(東から) 5. SK4(南から)
6. SK5(北から) 7. SD6(北から)



遺構外・遺物

1. 足跡検出(西から) 2. 足跡1(北から) 3. 足跡2(北東から) 4. 足跡3(北東から) 5. 足跡4(北東から)
6. 足跡完照(北から) 7. 近代溝(南から) 8. 遺物

報告書抄録

ふりがな	みやじょうみなみいせき はくつちょうさほうこく							
書名	宮条南遺跡 発掘調査報告							
副書名	県営農地整備事業町袋地区に伴う埋蔵文化財発掘報告							
巻次								
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第 84 集							
編著者名	田中道子							
編集機関	公益財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査課							
所在地	〒 930-0887 富山県富山市五福 4384 番 1 号 TEL. 076-442-4229							
発行年月日	西暦 2024 年 9 月 13 日							
ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 道跡番号		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
宮条南遺跡	富山市 町袋	16201	201043	36 度 44 分 8 秒	137 度 16 分 45 秒	20240507 ~ 20240521	47	県営ほ場整備事業 町袋地区 に伴う事前調査
所収道跡名	種別	時代	遺構		遺物		特記事項	
宮条南遺跡	集落	中世、近代	溝 土坑		3 条 3 基 中世土師器、近世以降陶 器、磁石		中世以降の溝や土坑と近代以 降の水路を検出した。	
要約								
調査では溝や水路などのほか、ウシとみられる偶蹄目の足跡を確認したことから、耕作地の一部を検出したと考える。大正時代以前の公園にある水路が、調査で検出した水路に一致する可能性が高いことは、当該地域での耕作地の変遷を実証する。								

2024 (令和 6) 年 9 月 10 日 印刷
2024 (令和 6) 年 9 月 13 日 発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第 84 集

宮条南遺跡発掘調査報告

— 県営農地整備事業町袋地区に伴う埋蔵文化財発掘報告 —

編集・発行 公益財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査課
〒 930-0887 富山市五福 4384 番 1 号
TEL. 076 - 442 - 4229

印刷 株式会社 中村
〒 930-0039 富山市東町 2-3-22
TEL. 076 - 424 - 4616

